

平成28年度事業報告

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や、業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行っている。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進め、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告、講演会等で行っている。

科学研究費助成事業

当研究所に所属する研究員は、科学研究費助成事業の出願が可能であり、個人・グループを問わず積極的に申請して文化財に関する研究活動を進め学会に寄与している。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、助成事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費として機関に措置される。

平成28年度科学研究費の継続課題は、学術研究助成基金助成金によるものが3件、科学研究費補助金（研究活動スタート支援）1件、一部が学術研究助成基金によるものが2件ある。

新規に採択された課題は学術研究助成基金助成金による課題4件であった。

なお、学術研究助成基金助成金は研究期間全体の合計額で採択されるため、単年度の研究費は明記しない。

(1) 継続研究課題

<補助金>

研究活動スタート支援

「擬似出土木材調製方法の開発」

平成27～28年度 山口繁生 900千円（平成28年度）

<基金>

基盤研究（C）一般

「東アジアにおける石材利用技術の地域性と伝播・展開に関する基礎的研究」

平成26～28年度 佐藤重聖 3,800千円（研究期間合計額）

「東アジアにおける甲冑の変遷と祭祀利用の実態解明に関する基礎的研究」

平成27～29年度 塚本敏夫 3,600千円（研究期間合計額）

若手研究（B）

「日本中世における戦死者供養の実証的研究」

平成27～29年度 服部光真 1,500千円（研究期間合計額）

<一部基金>

基盤研究（B）一般

「出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について」

平成26～29年度 植田直見 13,300千円（研究期間合計額）

「日本中世における葬送墓制の総括的研究」

平成26～30年度 狭川真一 11,900千円（研究期間合計額）

(2) 新規研究課題

<基金>

基盤研究（C）一般

「超微細気泡（ナノバブル）を用いた保存処理方法の構築」

平成28～30年度 山田卓司 3,700千円（研究期間合計額）

挑戦的萌芽研究

「ルビジウム-ストロンチウム放射壊変系による出土琥珀の産地推定」

平成28～30年度 植田直見 2,700千円（研究期間合計額）

若手研究（B）

「鏝情報に基づく戦後復興期消滅古墳副葬品配列の復元研究」

平成28～30年度 初村武寛 1,700千円（研究期間合計額）

「施釉陶器色調計測の基礎的研究」

平成28～30年度 田中由理 1,400千円（研究期間合計額）

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査研究グループ

人文科学分野

北海道様似町

様似山道報告書資料調査業務委託

福井県

『大般若経』X線撮影等調査業務委託

奈良県奈良市 雨宝山十輪院

歴史資料総合調査および寺史編纂事業

奈良県桜井市 総本山長谷寺

文化財等保存調査事業

大阪府大阪市 四天王寺

境内所在石造物調査

大阪府泉南市

文化財総合調査

大阪府高槻市教育委員会

古文書史料目録作成

大阪府松原市

史料整理作業業務委託

香川県

札所寺院の史跡指定に係る観音寺・神恵院
文化財詳細調査

愛媛県

四国へんろ世界文化遺産推進事業における
札所(明石寺)の詳細調査(その2)

愛媛県西条市・石鎚神社

木札(先達会符)赤外線撮影・墨書銘判読業務

寺院を対象とする継続的な総合調査事業として、長谷寺の文化財等保存調査事業では、古文書・古記録、聖教類、繊維製品、石造物、工芸品などについての調査・整理を実施した。十輪院の歴史資料総合調査は2年度目にあたり、聖教類、工芸品、彫刻・絵画の調査を実施した。四天王寺境内所在石造物調査も2年度目にあたり、無縁塔及び亀井堂亀石、宝物館前石棺の調査を実施した。

四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、建造物、石造物、絵画、工芸、彫刻、古文書・古記録、聖教等を対象とするものである。香川県では観音寺・神恵院の調査を実施して完了した。愛媛県では明石寺の調査の2年度目分を実施した。

泉南市文化財調査は、信達神社を対象として総合調査を実施し完了した。

古文書の目録・翻刻作成業務としては、北海道様似町の様似山道に関わる長津家文書の調査および翻刻・所見作成、高槻市の高階家文書の目録作成、松原市の上田・西田敏弘家文書、西田覺次家文書の目録・所見作成を行った。

その他、石鎚神社の木札（先達会符）は当研究所での赤外線撮影、福井県・白山神社の『大般若経』は同じく当研究所でのX線撮影に基づき、銘文翻刻と内容分析を行った。

考古学分野

- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 和歌山県高野町 | 平成28年度 高野山奥之院基礎資料整理業務 |
| 香川県丸亀市 | 丸亀城跡（大手町地区）4次調査出土遺物整理業務委託 |
| 奈良県 | 桜井吉野線 町石現状調査委託
(防災・安全交付金事業（道路改良）) |
| (株) プレサンスコーポレーション | 平安京跡・烏丸綾小路遺跡発掘調査・整理報告書作成業務 |
| (株) やまぐち | 石川土城遺跡発掘調査報告書作成業務 |
| (株) 井上地所 | 藤原京・石川廃寺発掘調査報告書作成業務 |

高野山奥之院基礎資料整理業務は、国指定史跡高野山奥之院の保護活用のために、1980年代に作成された高野町教委所有の奥ノ院石造物調査カードを整理し、エクセルデータ化した。次年度以降、校定作業と現地調査を行う予定である。

丸亀市丸亀城跡（大手町地区）3・4次調査出土資料は、平成18年度に当研究所が調査を行ったもので、5年間の継続事業として整理作業を受託している。平成28年度は4年度目で4次調査の遺構図版作成と文章執筆を行った。

桜井市町石現状調査は、多武峯における県道拡幅に伴って移設される町石についての緊急調査である。合計6基の町石について実測調査を行い、報告書を刊行した。

発掘調査は奈良県橿原市石川町で2か所、京都市内で1か所行った。藤原京・石川廃寺は推定山田道に沿った地点で調査を行い、7世紀の鑄造関連遺構と先行する整地層によって埋没する谷を検出した。石川土城遺跡は約1,300㎡の調査を行い、14世紀から16世紀の土豪居館を検出した。これらの報告書は平成29年度に刊行予定である。

記録資料分野

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市） 所蔵資料の状態調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は11年目を終えた。歴博内では館内業務の位置付けを再検討する時期にきており、状態調査の意義付けを館内でも検討中である。平成28年度は前年より引き続き現地調査員を駐在させての委託業務として状態調査を行なった。調査対象資料は前年度より継続して調査していた「1970年代ミニコミ資料群」と「(台湾)高山族民俗資料」である。

舞鶴市引揚記念館（京都府舞鶴市）

ユネスコ世界記憶遺産登録資料状態調査及び保存処理計画策定等業務

舞鶴引揚記念館で収蔵されている570点のユネスコ世界記憶遺産登録資料の状態調査および展示・収蔵環境の調査（環境調査は保存科学研究グループが担当）を行い、所蔵館と協議の上、今後の保存処理および保管環境の改善計画を策定した。

記録資料・伝世資料分野

沖縄美ら島財団（沖縄県本部町）^{もとぶちょう}海洋文化資料の管理保存に関する調査

平成27～28年度事業。海洋文化館（国より沖縄美ら島財団へ管理委託）収蔵資料の調査研究および普及啓発に関する検討業務を保存科学研究グループと共に進めている。平成27年度に引き続き所蔵資料の状態調査と保管環境調査を継続し、今後の保存計画の策定のためのデータ化と館蔵資料の取り扱いマニュアル等の整備を進めた。

保存科学研究グループ

大阪府立近つ飛鳥博物館（大阪府太子町） 大修羅の保存状態調査

出雲大社（島根県出雲市） 重文出雲大社境内遺跡出土品保存修理に伴う計測

沖縄美ら島財団（沖縄県本部町）^{ちゅいらしま}海洋文化館の環境調査・評価

京都府舞鶴市 舞鶴引揚記念館の環境調査・改善計画策定

大修羅の保存処理後、寸法計測や表面状態調査を平成9年度から毎年継続的に行っている。保管環境は良好で、これまでに大きな変形などは見られないが、経年変化による部分的な表面質感や補填材の劣化が観察されている。

出雲大社境内遺跡出土心御柱3本のPEG含浸処理後の変形収縮を防止するため、定期的な寸法計測や重量測定を行った。

太平洋地域の海洋民族に関する資料を収蔵する沖縄海洋文化館とユネスコ世界記憶遺産登録資料を収蔵する舞鶴引揚記念館の環境調査を行い、評価を行うとともに、改良案の提案を行った。

3 D分野

和歌山市 不老橋修復等事業

江戸時代末期に設置されて以降、現在に至るまで根本的な修復がされないままに経年劣化が進んでいる名勝和歌浦の不老橋の修復事業の一環として、3D計測、3D計測を用いた経年変位の定点観測、赤外線サーモグラフィによる石材脆弱部分の調査を行った。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内における石造物の悉皆調査は1989年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

平成28年度は正暦寺しょうりやくじにある3基の古式宝篋印塔ほうきょういんとうのうち、西側の1基について詳細な調査を実施した。本塔は、反花座上かえりぼなごに乗る立派な宝篋印塔だが、3基中最もシンプルなものであり、類似の塔が小塔院にある。銘文はないが、鎌倉時代後期の優品の一つに数えられる。今回で3基すべての調査が終了したため、『元興寺文化財研究所研究報告2016』に報告を行った。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

宮崎県えびの市	島内139号地下式横穴墓出土金属製品の分析調査
長野県諏訪市	小丸山古墳出土金属製品の分析調査
新潟市	細池寺道上 <small>ほそいけてらみちうえ</small> および小坂居付遺跡 <small>こさかいづけいせき</small> 出土木製品の分析
愛知県愛知芸術センター	藤井達吉コレクション「帝王の冠」の材質分析
徳川記念財団	日光山輪王寺 <small>にっこうさんりんのうじ</small> 所蔵《楽器（祝）》 <small>しゆく</small> の分析
鹿児島県喜界町	崩り遺跡 <small>くずり</small> 出土琥珀 <small>こはく</small> の分析

宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓出土金属製品の材質分析や、付着漆・繊維の観察・同定、鉛同位体比測定による産地同定を行ない、長野県諏訪市小丸山古墳出土金属製品の材質分析、微小部観察、太刀の鉄組織分析を行った。

新潟市細池寺道上および小坂居付遺跡出土木製品の塗膜の材質分析や断面観察を行った。

愛知県愛知芸術センターの藤井達吉コレクション「帝王の冠」の材質分析を行い、徳川記念財団の日光山輪王寺所蔵《楽器（祝）》に塗られた塗料を分析した。喜界町崩り遺跡出土琥珀を科学分析することにより産地を推定した。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査研究グループ

記録資料分野

高知県文化財団	県立美術館所蔵絵金派屏風図の修復
大阪府河内長野市	書籍・古文書・型紙の修復
関西学院大学（兵庫県西宮市）	古文書の修復
豊中市	古地図の修復

文書・絵図類の修復事業は漉嵌法^{すきばめほう}を中心に進めており、河内長野市や関西学院大学などの古文書の修復を実施した。絵図面の修復は需要が増えてきており、資料の状態に応じて漉嵌法と裏打ち法を選択している。豊中市の古地図は昭和13年のもので、酸性劣化による硬化もみられ、裏打ちと同時にアルカリ性剤による脱酸処理も施した。河内長野市の河内木綿の型紙は、柿渋塗りの和紙に細かな文様が切り込まれたもので、硬化し亀裂が生じていたが、加湿によるフラットニングと裏打ちを施した。また同じく図書館蔵書類も毎年数冊ずつを修復している。

高知県立美術館所蔵の絵金派屏風図は、村の祭事に使い続けられて損傷が甚だしくなった芝居絵屏風4点が高知県へ寄贈されたのを機に、解体修復し納品後すぐに常設展示に出品されている。

伝世資料分野

大分県佐伯市	重要有形民俗文化財蒲江の漁撈用具(網船)保存修理(その2)
岩手県陸前高田市	登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」保存修復業務
高知県	高知県立歴史民俗資料館所蔵西畑人形頭 ^{さいばた} の保存修復業務委託
和歌山市	不老橋修復等事業

佐伯市は、平成27年度に行った保存修理業務の継続事業である。網船の保存修理・実測図作成と平成13年度から行ってきた保存処理全般の報告書作成業務が完了し、佐伯市に於いて『重要有形民俗文化財「蒲江の漁撈用具」保存修理報告書』が出版された。

陸前高田市は、平成27年度に引き続き28年度も東日本大震災による被災資料である陸前高田市立博物館所蔵の漁撈用具について8点の保存修復を行い、完了した。

高知県立歴史民俗資料館所蔵西畑人形頭2点の保存修復を行い無事完了した。

国の名勝和歌の浦にある不老橋の老朽化が進み、親柱続いて欄干が崩落した為、修復を行い、欄干は現地、親柱は和歌山市立博物館に収蔵し、現地にはポリエステル系樹脂によるレプリカを作製して設置した。平成29年度も事業は継続する予定である。

文化財調査研究グループ

出土木製品分野

出雲大社（島根県出雲市）	重要文化財出雲大社境内遺跡出土品の保存処理
滋賀県東近江市	重要文化財雪野山古墳出土漆製品の保存修理
福島県会津若松市	重要文化財会津大塚山古墳出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
愛知県清須市	清州城下町遺跡出土柿 ^{こけらきょう} 経の保存処理
熊本県	曾畑貝塚 ^{そばたかいづか} 出土植物性遺物保存処理

重要文化財の修理に関しては、平成23年度から出雲大社所蔵の重要文化財出雲境内遺跡出土の心御柱3本（鎌倉時代）他の保存処理をおこなっている。平成28年度はPEG溶液内から出槽したのちの心御柱の経過観察と「南西柱」用の保管用支持台の作製をおこなった。また、平成26年度から継続していた東近江市雪野山古墳（古墳時代）出土の鞍^{ゆさ}などの漆製品の保管台や保管箱の作製や、会津若松市会津大塚山古墳（古墳時代）出土の鞍^{ゆさ}、福山市草戸千軒町遺跡（鎌倉～室町時代）出土遺物の再修理をおこなった。

他に、清州城下町遺跡（室町時代）から出土した柿^{こけらきょう}経の保存処理や、平成3年度から平成6年度にわたり保存処理を行なった曾畑貝塚遺跡^{そばたかいづか}（縄文時代前期）出土植物性遺物の再修理を実施した。

出土金属製品分野

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）	国宝神庭荒神谷遺跡 ^{かんぼこうじんたに} 出土青銅製品の保存修理
福岡県宗像大社	国宝沖ノ島祭祀遺跡出土金属製品の保存修理
福島県会津若松市	重要文化財会津大塚山古墳出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品保存修理
文化庁（兵庫県立博物館保管）	重要文化財箕谷2号墳出土戊申銘象嵌大刀の保存修理
大阪府豊中市	重要文化財豊中大塚古墳出土品の保存修理
宮崎県えびの市	重要文化財島内 ^{しまのうち} 地下式横穴墓出土品の保存修理
群馬県埋蔵文化財調査事業団	金井東裏遺跡出土甲冑の保存処理

国宝の保存修理として、平成22年度から7か年事業で行っている島根県神庭荒神谷遺跡（弥生時代）出土銅剣の保存修理を行った。

また、宗像大社所蔵・国宝沖ノ島祭祀遺跡（古墳時代から奈良時代）出土金属製品の保存修理は、平成27年度からの継続事業として作業を行った。

重要文化財では、平成25年度から継続している福島県会津若松市・会津大塚山古墳(古墳時代前期)出土品の保存修理を行った。また、広島県福山市・草戸千軒町遺跡(中世)出土品、大阪府豊中市・豊中大塚古墳(古墳時代中期)出土品、宮崎県えびの市・島内地下式横穴墓(古墳時代中期)出土品などの保存修理も行った。

その他、象嵌鍛冶具が発見された宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓出土遺物の保存処理や群馬県金井東裏遺跡出土甲冑類の保存処理を行った。

土器・3D分野

文化庁	重要文化財兵庫県箕谷2号墳出土品保存修理
山形県	重要文化財山形県水木田遺跡出土品保存修理
茨城県土浦市	重要文化財茨城県武者塚古墳出土品保存修理
島根県立古代出雲歴史博物館	荒神谷遺跡出土品の保管台の改修事業
滋賀県東近江市	平成28年度重要文化財雪野山古出土漆製品の保存修復業務

国の指定文化財の修理としては、兵庫県箕谷2号墳出土の須恵器・土師器48点の保存修理や、山形県水木田遺跡出土の縄文土器4点の保存修理を行った。また、茨城県武者塚古墳出土のガラス小玉・勾玉・切子玉の保存修理を行った。

他に、長崎市の史跡出島和蘭商館跡出土ガラス製品の保存修理なども行った。

また、当室では三次元計測等の事業も継続して行っている。

平成28年度は昨年度から引き続いて国宝島根県荒神谷遺跡出土品の三次元計測及び保管台の改修事業を実施した。

重要文化財雪野山古出土漆製品の保存修復委託業務では、平成27年度に三次元デジタル計測を行ったデータに基づき、保管箱を作製した。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

企画展の開催

春季企画展『ならまちの南玄関一肘塚・京終の歴史文化ー』 ※(宗)元興寺と共催

開催期間 平成28年4月29日(金)～5月15日(日)

開催場所 元興寺 法輪館 入館者数 6,521名

今年度肘塚の地に総合文化財センターを開設するに当たり、地域連携プロジェクトの第1弾として企画展を開催した。

京終駅を中心に近代産業が栄えた肘塚・京終^{かのたけ}地域^{きょうまげ}周辺は、「ならまち」の南の入口に位置し、歴史的にも人の行き交う交通上の要地という立地を活かして豊かな地域文化をかたち作ってきた。その歴史を物語る文化財は豊富に残されている。

個性ある当地の歴史文化を地域住民の協力を得て掘り起こし、考古資料、石造物、美術・工芸、民俗資料、古文書、古写真などの多様な資料によって肘塚・京終地域周辺の歴史文化を紹介した。

地域歴史遺産再発見ミーティング

平成28年5月10日（火）

春期企画展会期中に、行政機関、近隣大学の地域振興・まちづくりに係わる担当者や研究者に呼びかけて開催した。

「地域連携プロジェクト」として開催された春期企画展の成果報告と批評、各機関での取り組みの報告などを通じ、地域文化振興のための今後の継続的な連携・協力体制のあり方を模索することを目的とし、学生や地域住民を組み込んだかたちでの地域文化掘り起こしに向けて、建設的な話し合いを行った。

ちよこつと関西歴史たび「元興寺」（JR西日本キャンペーン）（奈良市後援）

特別講座

総合文化財センター研修室

「地蔵会とならまち・元興寺―地蔵信仰と地域社会―」

角南聡一郎 8月20日（土）

「元興寺と大仏様」

村田祐介 9月11日（日）

「元興寺五重小塔の謎・ナゾ・謎」

狭川真一 9月17日（土）

秋季特別展の開催

『版木―刻みこまれた信仰世界―』

※(宗)元興寺と共催

開催期間 平成28年10月22日(土)～11月13日(日)

開催場所 元興寺法輪館

入館者数 11,027名

版木とは木版用の板をいう。摺写・印捺^{しゅうしゃ・いんなつ}によって同じものを多量に作成することができるため、経典や仏書の刊行のほか、参詣者に配られたお札やお守りの作成など、仏の教えを広める様々な場面で用いられてきた。社会の深層に根付いた信仰の実態を知る上で欠かせぬ仏教文化財である。

当研究所では(公財)大和文化財保存会援助事業として、平成7年度より平成27年度にかけて奈良県内寺社所有の版木の調査を行い、20冊の報告書を刊行し、その集大成として特別展を開催した。

本展示では、これまでの調査で見いだされた版木やその拓本、摺物を主に展示し、文化財としての版木そのものの特質、刻まれた内容からわかる寺院の動向や庶民の信仰など、仏教文化の深層を紹介した。

講演会

11月3日（祝）

於 国宝禅室

「様々な木版摺^{しゅうしゃ}図像の周辺―庶民に流布した信仰図像―」

高橋平明

「樹種から版木を読む」

木沢直子

元興寺文化財研究所総合文化財センター開所記念講演会

平成28年度地域の特色ある埋蔵文化財活用事業（文化庁国庫補助事業）として、総合文化財センターの開所式開催にあわせて下記の講演会を開催した。

「宝物が生きる奈良」（11月26日）

- ・「出土金属製品の保存処理と模造品製作—東大寺金堂鎮壇具を中心として—」
塚本敏夫(総合文化財センター長)
- ・「正倉院宝物の材料調査—特に金属、顔料について—」
成瀬正和（東北芸術工科大学客員教授）
- ・「漆製文化財の修理—春日大社国宝蒔絵箆の修理と復元模造について—」
北村昭斎（漆芸家）
（重要無形文化財「螺鈿」保持者）
（選定保存技術「漆工品修理」保持者）

「アジアの鬼と妖怪」（11月27日）

- ・「遺構・遺物とガゴゼ伝承の諸相」角南聡一郎（総括研究員）
- ・「道場法師説話の源流」丸山顕徳（花園大学特任教授）
- ・「韓国の鬼「ドッケビ」はどのように描かれて来たか？」
朴美暎（京都大学非常勤講師）

「公開講演会「ならまち」成立前夜—寺院史からみた中世奈良の変容—」

開催期日 平成29年1月28日（土）

開催場所 総合文化財センター ルーパ館3階研修室

「中世都市奈良の力」高橋慎一郎（東京大学史料編纂所 教授）

「念仏講衆碑からみた浄土系寺院の成立」佐藤亜聖（主任研究員）

「戦国・江戸初期における顕密寺院の消長—福寺と十輪院を事例として—」
服部光真（研究員）

「伝福寺池出土の古代瓦」奈良大学学生

文化講座の開催

狭川副所長による文化講座を(宗)元興寺と共催で計10回開催した。

- 平成28年4月15日(金) 終末期古墳と仏教
—古墳にみえる仏教の影響を探る—
- 5月13日(金) 火葬がはじまった頃
—火葬は仏教の影響で広まったのか—
- 6月17日(金) 奈良時代のお墓事情
—墓の造営と仏教の影響—
- 7月15日(金) 聖武天皇の供養と仏教
—陽宝剣・陰宝剣の発見から—
- 8月19日(金) 平安時代のお墓事情—平安京周辺の天皇陵と仏教—

10月14日(金)	屋敷墓の実態	—屋敷神と埋葬の作法—
11月11日(金)	卒塔婆の登場	—木製塔婆の出現と墓—
12月9日(金)	絵画にみる墓地の風景	
		—『餓鬼草紙』に描かれた世界は真実か!—
1月13日(金)	貴族の墓から武士の墓へ	
		—墳墓堂から石塔の造営へ—
2月10日(金)	高野山奥之院納骨の実態	
		—出土遺物からみた世界—

展覧会等の開催支援

平成28年度『発掘された日本列島2016』展（文化庁受託事業）

文化庁（記念物課）と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展に関する、展示品の貸借、展示プランの作成、展示パネル、キャプション等作成、展示品の点検・集荷、展示・撤収支援、展示品の返却のほか、開催予定館との連絡調整等の多岐にわたる開催支援業務を平成20年から実施している。

本年度は36遺跡約760点の資料を展示した。新潟県糸魚川市六反田南遺跡からは良好な遺存状態の多数の縄文土器のほか、磨製石斧の製作工程をうかがわせる一括の資料が出品された。また、特集1では東日本大震災の復興事業に関わる発掘調査の成果の展示が、特集2では過去の自然災害からの復興を物語る遺跡の展示が行われた。入館者数についてはのべ213日間の開催で98,106人であった。

平成28年度開催館、開催期間および入館者数

東京都江戸東京博物館	平成28年 6月 4日～ 7月24日	76,337人
大津市歴史博物館	平成28年 8月 6日～ 9月11日	4,455人
秋田県立博物館	平成28年 9月22日～10月30日	4,265人
高知県立歴史民俗資料館	平成28年11月12日～12月18日	2,223人
北九州市立自然史・歴史博物館	平成29年 1月 2日～ 2月19日	10,826人

奈良大学博物館企画展の展示撤収および返却作業

奈良大学の企画展『発掘された古代国家』に展示する資料について、展示撤収、梱包・輸送を行った。主な展示資料は、奈良市平城京出土遺物、大津市山の神遺跡出土遺物、明日香村飛鳥古京出土遺物、太宰府市大宰府政庁水城出土遺物など約250点である。

大阪大谷大学博物館（大阪府富田林市）

大学創立50周年記念特別展「地獄・極楽 あの世の世界」展示支援
展示資料の梱包、輸送、展示作業を行なった。

書写山圓教寺（兵庫県姫路市）

圓教寺食堂展示資料のクリーニングと常設展示資料の入れ換え作業

常設展示資料のクリーニングと簡易修理、展示資料の入れ換えに伴う解説パネル等の作成を行った。

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内環境の管理と、古代瓦見学プランの作成、法輪館の展示管理業務等を行った。

6. 報告書、書籍等の刊行

『元興寺文化財研究所研究報告2016』（1,500冊）

（公益財団法人畠山文化財団助成事業）

平成23年度からは（公財）畠山文化財団からの助成金を受けて刊行している。

『ならまちの南玄関－肘塚・京終の歴史文化－』（500冊）

地域連携プロジェクトの成果報告書第1集として、春季企画展『ならまちの南玄関－肘塚・京終の歴史文化－』の内容と、その後の調査知見等をまとめた報告書を刊行した。

『版木 刻みこまれた信仰世界』（500冊）

秋季特別展『版木 刻みこまれた信仰世界』の図録を刊行した。

7. 体験活動等

研究、調査成果を還元し、文化財保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的としている。

博物館実習 近畿大学 京都女子大学 奈良大学

中学生職場体験 平城西中学校

「博物館とコミュニティー開発コース」研修員受け入れ

国立民俗学博物館が国際協力機構（JICA）から委託を受け、各国から研修員を受け入れ実施している博物館学総合研修「博物館とコミュニティー開発コース」のうち、「資料保存と修復」について担当し、実習を行った。

春季企画展関連企画 「ならまち歴史ウォーク」 5月7日（土）

JR京終駅から出発し、総合文化財センター、福寺跡や肘塚など肘塚・京終に残る歴史文化の跡をたどり、北上して元興寺で春季企画展を見学した。

ちよこつと関西歴史たび「元興寺」(JR西日本キャンペーン) (奈良市後援)

・古地図ウォーク「怨霊伝説」

7月23日(土)、8月6日(土)、8月28日(日)

9月10日(土)、9月24日(日)

JR京終駅から出発し、古地図を見ながら、ならまちの歴史スポットや怨霊にまつわる不思議な伝承が残る場所を巡り、元興寺を拝観した。

・文化財を科学の目で見てみよう!～親子体験会～

7月30日(土)、8月3日(水)

総合文化財センター

夏休みの小学生とその父兄を対象として、顕微鏡やサーモグラフィの実際の操作、マイクロスコープで布の微細な模様を観察、赤外線で木簡に隠れた絵を見つけるなど、親子での文化財研究者体験会を実施した。

「奈良時代の瓦の拓本体験」(JR東海ツアーズ)

JR東海の旅行企画「親子で行く修学旅行」の中で、奈良時代の本物の瓦を使った親子の拓本体験会を実施した。

施設見学会

総合文化財センター開所に伴い、施設の公開事業を本格的に開始した。

個人向け見学会は、1月20日(金)、2月10日(金)、3月10日(金)の3回実施し、約70人が参加した。

その他、東京藝術大学、金沢大学、大谷大学、甲南大学、滋賀県高等学校社会科教員、奈良県高等学校社会科教員等の団体の見学を受け入れた。

8. その他

平成28年度国庫補助事業について

平成28年度 国宝重要文化財等保存整備費補助金

事業の名称 県内埋蔵文化財 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業

実施期間 平成28年4月5日～平成29年3月31日

事業内容

平成25年度から改修を進めてきた総合文化財センターに関する追加設備工事の実施と生駒分室からの設備備品の移転工事を行った。

また、公開事業として開所記念講演会と、公開のための看板、パネル、チラシを作製し、一般公開を実施した。

事業額	補助事業総額	11,142,000円
	交付決定額	5,571,000円
	自己負担額	5,571,000円

事業明細

設備・備品関係

ルーパ館3階の空調電気工事と遮光カーテン設置

B棟1階書庫の照明器具・換気扇取付

サマヤ館写場の撮影用足場設置

小型排気装置改良

実験実演用天秤購入

ガイダンス用映像機器購入

大型プリンター購入

移転関係

生駒分室から総合文化財センターへの移設

真空オープン、コンプレッサー、スペックオープン（加熱装置）

含浸タンク、ドラフトチャンバー（局所排気装置）

公開事業

総合文化財センター開所記念講演会の実施（10月26日、27日）